

『ノーカントリー』

原題 No Country for Old Men 2007



©2008 DW Studios LLC. All Rights Reserved

映画批評

『ノーカントリー』

— 不条理の世界を生きる人間

塚田三千代 (翻訳家・映画アナリスト)

©m.tsukada

1980年代アメリカのテキサスとメキシコ国境に近い砂漠ですべてが始まった。狩りをしていたベトナム帰還兵のルウェリン・モスは、偶然、死体の山に囲まれたピックアップ・トラックを発見する。

そのトラックの荷台に大量のヘロインと200万ドルという大金が残されていた。モスは自分の人生を大きく変えることを知りながらも、その金を奪ってしまう。この瞬間からモスの命は狙われる。ルウェリン・モス(ジョシュ・ブローリン)は逃げる男で、恐怖と不安を100%抱えている。

追う男1はアントン・シガー(ハビエル・バルデム)で、運命をコインの表裏できめつける男で、ボンベ付きエアガンを持ち歩く。追う男2はエド・トム・ベル保安官(トミー・リー・ジョーンズ)である。彼は泰平であるはずの国境で起きた事件の対処に、内心は穏やかならぬ恐怖と不安に襲われている。ここに追われるものと追う者の憶測に満ちた追跡劇が始まり、映画はこの三人に待ち受ける運命を追い続ける。

映画の構成は今様な西部劇に仕上がっている。だからこそ面白い。映像から西部劇部品を取り出してみよう。まず、金貨でなくドル札入りのトランク奪回をめぐる逃走と追跡。一匹狼の殺し屋が常用するのはショットガンでなくボン

ベッキエアーガン。馬でなく自動車とトランスポンダー。保安官はカーボーイハットでピストル。テキサスの荒涼とした砂漠とメキシコの国境。登場人物の心情は非情そのもの…。立場のちがう3人の男たちがそれぞれの自分流を主張する。映画の冒頭で、「いまはすべてにどう対処すればよいのか分からないが、ともかく…」と語っているように、タイトル 'No country for old men.' それ自体が映画の流れのままに不条理を具現化して表象する。



↑ テキサスの荒涼とした砂漠とメキシコの国境



↑ 平穏な郊外の住宅地で遊ぶ子どもたち

文学で不条理の世界が描かれているのはカミュの「異邦人」であるが、映画でこれに挑むのが本映画の監督コーエン兄弟である。世界の不条理に直面する人間を、コーエン兄弟が映画術でどう創作し、どう表現しているかに注目したい映画である。次のベル保安官のモノローグと、アントンとガソリンスタンド店主が交わす会話は、ほんのきっかけとなるセリフである、

・It's not that I'm afraid of it. I always knew you had to be willing to die to even do this job. But, I don't want to push my chips forward and go out and meet something I don't understand. A man would have to put his soul at hazard. He'd have to say, "O.K., I'll be part of this world."

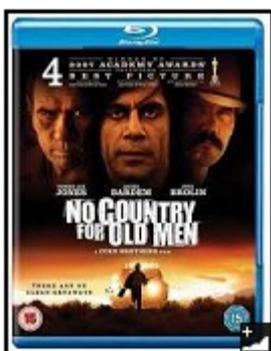
・*The gas station proprietor nervously takes the quarter with the small pile of change he's apparently won while Chigurh starts out.*

Anton Chigurh: Don't put it in your pocket, sir. Don't put it in your pocket.
It's your lucky quarter.

Gas Station Proprietor: Where do you want me to put it?

Anton Chigurh: Anywhere not in your pocket. Where it'll get mixed in with
the others and become just a coin. Which it is.

映画では、米国ベトナム戦争後のテキサスとメキシコ国境周辺が舞台で、州と州との州境ではもはやない。映画と原作の違いはエンディングに向けてのプロットが違う。もっとも大きな違いは映像+音声か、言葉(文章)か、である。映画には小説で得られないものがあるからである。『ノーカントリー』の素材は犯罪・スリラーではあるが、'more than words' なもののある映画である。エンディングは人間の在り方を問う映像的な余韻を残して終わっている。『ノーカントリー』は… (続く)



【 映画情報 】

JOEL COEN ジョエル・コーエン(監督/脚本/製作)

Scott Rudin スコット・ルーディン(製作) Robert Graf ロバート・グラフ(製作総指揮)

Mark Roybal マーク・ロイバル(製作総指揮)

Roger Deakins ロジャー・ディーキンス(撮影監督)

Jess Gonchor ジェス・ゴンコール(美術)

Mary Zophres メアリー・ゾプレス(衣装)

Carter Burwell: カーター・バーウエル(音楽)

言語: 英語、スペイン語

出演者:

Tommy Lee Jones ... Ed Tom Bell

Javier Bardem ... Anton Chigurh

Josh Brolin ... Llewelyn Moss
Woody Harrelson ... Carson Wells
Kelly Macdonald ... Carla Jean Moss
Garret Dillahunt ... Wendell
Tess Harper ... Loretta Bell
Barry Corbin ... Ellis

2008年3月15日(土)、日比谷シャンテシネほか全国ロードショー
配給:パラマウント/ショウゲート 提供:博報堂 DY メディアパートナーズ
2007/アメリカ/35mm/カラー/シネマスコープ/ DTS SRD SDDS R-15
j 上映時間: 122 分

【 受賞 】

◆(米)アカデミー80回作品賞を受賞 2008/2/25

8部門:作品賞・脚色賞・監督賞・助演男優賞・撮影賞・編集賞・録音賞・音響編集賞にノミネートされ、4部門(作品賞・監督賞・助演男優賞・脚色賞)を受賞した。

・作品賞/監督賞 (ジョエル&イーサン・コーエン)

・脚色賞(イーサン・コーエン)

・助演男優賞(ハビエル・バルデム)

他にも同年の多数の賞を受賞した。

ニューヨーク映画批評家協会賞:作品賞、監督賞、助演男優賞、脚本賞

ワシントン DC 映画批評家協会賞:作品賞、監督賞、助演男優賞、アンサンブル演技賞

シカゴ映画批評家協会賞:作品賞、監督賞、脚色賞、助演男優賞

トロント映画批評家協会賞:作品賞、監督賞、助演男優賞、脚本賞

【原作について】

原作本(邦訳と英語版)と映画との違いについて

原作は国境3部作でベストセラー作家コーマック・マッカーシー(CORMAC MCCARTHY)

の 'No country for old men.'である。邦訳は「血と暴力の国」(2005)。

区切線

©2008 m.tsukada. All Rights Reserved.